

Title	會告
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.1 (1926. 3) ,p.153- 153
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19260300-0155

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

も一致するものではないにしても、語學に對してあれだけの努力を惜まないのならば、文學に對しても少くも注意を拂つて然るべきであらうと思ふ。しかるに事實吾々は、語學に親むことの多きにかゝはず、文學には至つて疎遠であつた。ましてその文學史においてにはなほさらである。その理由は英文學そのものの性質によるかもしれない。國民一般の無定見により、或は語學者の文學的無智にもよるであらうが、またその方面の指針となるべき邦語の好著なきためでもあつた。しかるに今般新進英文學者の石井誠氏によつてブルックの名著英文學史の邦譯を得たことは、多年の渴望を醫すべき快事と言はねばならぬ。

原書はもと八章よりなり、ノルマン征服前の文學から一八三二年スコットの死とともに終つてゐたのを、その後現代に至るまでの一章をオオツサムプスンが増補したのであつて、譯書はこの一九二四年の増補新版によられたのである。その内容の價値は、ことごとしく、「紹介するまでもなくこの量の書としては是に優る英文學史を望むことは不可能である」と凡ての識者によつて認められたる名著であつて、その濫觴より現代に至るまでの文學を極めて「透徹明快な斷定」と、「適確にして高雅な文體」とをもつて叙述せるものであつて、しかも簡單ながら科學や哲學や史學にまで論及せる點よりみれば、本書は英民族の精神的文明の發展をみるこゝとのできる文化史といふことができる。譯文は極めて明快、裝釘は頗る典雅、しかも詳細なる文學地圖と、年表及び索引とを附せられたことは、讀者にとつて非常に親切であり、近來の好評としてこれを江湖に推獎するを辭しない。(松本芳夫)

會告

本會々費大正十四年度分未拂込
の方へは近日集金郵便差立可申
候間御不在にても御支拂相成様
御用意の程願上候